グローバル時代の火力発電プラント

Thermal Power Plants in the Global Era

河井　研介
KAWAI Kensuke

東芝は火力発電プラントの分野で，国内外のお客さまのご指導の下，高信頼で高効率のタービン・発電機や，高機能の監視制御システムを次々と世に送り出してきました。昨今，国内では，電力需要の伸び鈍化に伴う新設事業用プラントの建設遷延や，電力取引自由化の波のなかで，低価格化のチャレンジには聖域がありません。海外では，大型の石炭火力やコンバインドサイクルプラントの一括受注対応や，運転保守の一括請負などサービス力の強化が求められています。

このようなお客さまの様々な声に応えるため，当社の技術開発の方向性を再検討し，提供するビジネスの再定義や業務プロセスの革新が必要となっています。例えば，海外市場での大型の一括受注プロジェクトを効率よく遂行するため，受注段階からのプロジェクトリスク管理，サプライヤーと協調した調達管理，IT（情報技術）化によるエンジニアリングプロセスの高度化に焦点を当てた活動などに注力しています。

これらのIT化やシステム化が有効に機能するには，その前提としてプロセス自身の合理化，スリム化や，共有データベース，知識ベースの整備・改善が必須となります。特に，グローバル環境下でのエンジニアリング業務の遂行には，インターネットをはじめとするITインフラの整備と戦力化が焦眉（しょうび）の課題となっています。ソリューション提供者としてのメーカーの競争優位性は，従来からの差異化商品，高性能・高品質，特長あるサービス，最適な納期実現に加え，メーカーのエンジニアリングプロセスや，それを支えるプロジェクトデータベースの良否，ITインフラの活用レベルなどに依存すると考えます。

次世代の火力プラントを巡るIT化やシステム化は，単に現在までのインフラに付加されるだけのものではなく，お客さま・メーカー・サプライヤー間など企業間の関係を根本的に変質させるものです。グローバルな観点から，環境調和型のシステムや持続可能性への配慮が従来にも増して求められるなか，お客さまの様々なニーズに応えられる，より良いソリューションを提案させていただければと考えています。

電力システム社　火力・水力技師長　Power Systems & Services Co.